

型枠式カラータイル

集客施設に売り込み

MM A樹脂使い急速施工

NIPPOは、鉄道駅を中心に展開する型枠式カラータイル工法「ファンシータイル」の受注拡大に向けて、適用範囲を広げる。アスファルト舗装やコンクリート舗装の上を好むのデザインで演出できる特色を生かして、高速道路のサービスマンエリアやテーマパークなど、集客力の向上を狙う個所への提案を強化。施工後すぐに利用できる速乾性や高耐久性を売りにして、毎年数千平方メートルで安定推移している受注量を「2万平方メートルに拡大したい」（生産技術課）としている。

NIPPO

鉄道駅で安定需要確保

ファンシータイルの施工は、速乾性のあるMMA（メタクリル）樹脂とセラミック骨材を混合したモルタルをアスファルトやコンクリートの舗装の上にコテなどで塗って手作業で行う。下地処理

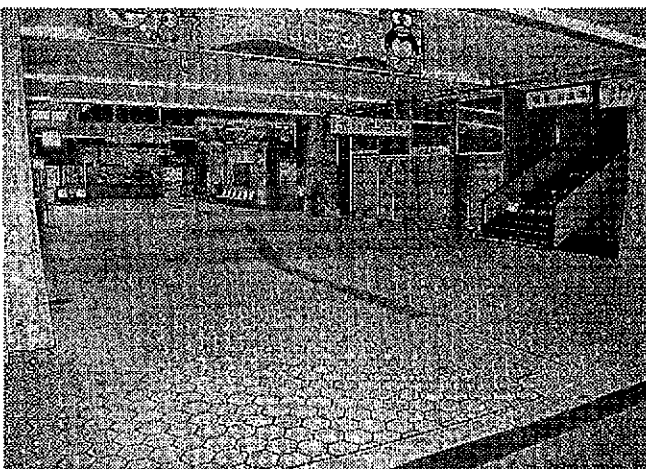
後にモルタルで自地工を行った後、厚さ2mmの薄型型枠を張り付け、再度表層材としてモルタルを塗布することで、タイル模様などの景観舗装に仕上げる。専用の型枠には、▽小

口平▽二掛▽フランス積▽ポーター▽イモ積▽ランダム▽鉄平▽石積▽亀甲などの標準型枠のほか、棒状型枠や点字型枠などがあり、これらを組み合わせて、路面に各種デザインを施すことが可能。顔料やカラー骨

材を組み合わせ、各種色彩の舗装を行うこともできる。速乾性のあるMMA樹脂を用いることで、終電から始発までの短時間の施工が必要な鉄道施設などへの導入を提案し、駅ホームやコンコースに採用されているファンシータイル。すでに導入から20年近

くが経過しているが、毎年十数件、3000〜5000平方メートル程度の施工を安定的に手がけている。08年度には、鉄道駅を核とする商店街での大規模な施工を含め、計8000平方メートル近い施工量を確保した。

同社は集客力の向上を狙った施設への導入に加え、冬場の寒い時期に施工できる材料特性を生かせる場所への提案活動も強化。天候や温度などに左右されずに、樹脂系舗装が可能となることもPRしながら、ファンシータイルを売り込んでいく。



鉄道駅での導入事例

日刊建設工業新聞
平成21年9月2日掲載